

モーダルシフトと内航海運



昨今のドライバー不足への対策や、災害時に備えた輸送モードの多重化として注目を浴びているモーダルシフト。

そのうち、内航海運へのモーダルシフトに焦点を当て、環境問題における役割、物流政策との関係、さらなる進展のための課題、船種ごとの輸送特性と競争関係について解説。また、海外の政策や国内の取り組み事例を紹介。

森 隆行 編

松尾 俊彦 田中 康仁 石田 信博 著
永岩 健一郎 石黒 一彦

A5判・168頁・定価(本体2,300円+税)
ISBN 978-4-303-16418-8 C3056

2020年4月発行



海文堂出版株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道2-5-4 TEL03-3815-3292 <http://www.kaibundo.jp/>

FAX 03-3815-3953

注文書

年 月 日

最寄りの書店、または弊社宛にお申し込み下さい。

書名	モーダルシフトと内航海運	定価(本体2,300円+税)	冊
お名前 (会社名)	TEL () FAX ()	貴店番線印(書店様用)	
ご住所 〒			

モーダルシフトと内航海運

森隆行 編

松尾俊彦／田中康仁／石田信博／永岩健一郎／石黒一彦 著

2020年4月発行

A5判・168ページ・定価（本体2,300円＋税）

ISBN 978-4-303-16418-8

【本書の概要】

近年、わが国においては、社会の電子化とそれに伴うネット通販の急速な拡大を背景に、宅配便を中心としたトラックドライバーの不足が社会問題となっている。また、自然災害による物流への影響も頻発している。こうした状況に加えて、2016年改正物流総合効率化法の実施による政府の後押しもあり、輸送手段をトラックから鉄道や船舶に切り替える、いわゆるモーダルシフトの機運が高まりつつある。

本書は、特に内航海運へのモーダルシフトに焦点を当て、様々な角度から解説している。第1章では環境問題における意義を説明し、第2章で物流政策との関係、第3章でさらなる進展のための課題を整理する。第4章・第5章ではモーダルシフトの受け皿となる船舶を対象に、船種ごとの輸送特性とその競争関係を分析。第6章では海外の政策を、第7章では国内の具体的な事例を紹介している。全体を通じて、モーダルシフトの目的の移り変わりや環境対策としての側面、陸上輸送と海上輸送の選択基準、国内外の取り組みの実態と課題などについて、広く理解を深め、認識を新たにすることができる。

モーダルシフトに再び注目が集まっている今、本書の内容は一読に値するものと言えるだろう。物流業・製造業・流通業に携わる多くの関係者に活用してほしい1冊である。

【内航海運研究会について】

代表者 森隆行（流通科学大学教授）

設立 2010年4月1日

設立趣旨 内航海運を継続的に研究する体制の構築。内航海運に関する調査研究とその発表等による情報発信。

わが国は海に囲まれており、国内物流の約4割を担っている社会インフラとして、内航海運の存在意義は大きい。一方で、国民の理解や関心は薄く、大学などでの内航海運に関する研究体制はなく、内航海運を専門的かつ継続的に研究する機関や研究者がいないのが現状であった。そのような状況を打破し、継続的に内航海運について研究する体制を構築し、積極的に情報発信をしていくという目的で設立したものである。

メンバー 森 隆行（流通科学大学教授） 松尾俊彦（大阪商業大学教授）
石田信博（同志社大学教授） 永岩健一郎（広島商船高等専門学校教授）
石黒一彦（神戸大学准教授） 李 志明（流通科学大学准教授）（休会中）
田中康仁（流通科学大学准教授）